

## 「中国报」（中国リポート 第三号）

### 銀行での両替も非居住者にとっては煩雑に

～銀行での外貨両替の詳細（第二号の続き）と後日談～

#### ◆中国銀行@北京首都空港 T3 編

中国にいる知人から、外貨の人民元への両替を銀行でしようとするとう当該銀行に口座がないとできなくなったとの情報をもらっていたので、4月に北京に出張したときに試しに銀行で両替にトライしてみた。中国駐在経験者は、このようなケースは個別の事例かもしれないし、実際にそういう「制度」ができたのかもしれないということを考える。つまり本当かどうかは自分の目で確認しないと信用しないという人が多い。銀行によって扱いが違ったり、同じ銀行でも支店によって違ったり、同じ行内でも窓口の担当者によって対応が違ったりするからである。

外貨の両替は、元来外国為替銀行だった中国銀行で両替するのが一番有利なレートで両替ができる。ホテルのフロントなどで両替すると手数料を取られるので不利だし、クレジットカードのキャッシングはもっとレートが悪い。一方中国の銀行は一般に日曜日でも窓口も営業している。オフィス街などにある中国銀行の支店の窓口で休日に両替すれば、空いていてしかもレートも有利なので、これまでも筆者はよく利用していた。

以前の中国の銀行は、パスポートを見せるだけで両替をしてくれた。外貨が手に入ることは中国という国家にとってウェルカムなことだったはず（？）だが、今年になってから簡単に両替できなくなっているというのだ。今や世界の外貨準備を持つ経済大国中国、旅行客がちまちま交換する外貨などいらなくなったのだろうか。昔を知る人にとって、世の中変わったものだと感じざるをえない事象の一つであろう。

北京空港の場合、出発ロビーのある階に中国銀行は店舗を開いている。店舗は窓口が二つだけの小さなものだ。中国銀行は四大銀行の中でも英語も通じる（場合が多い、これも保証の限りではない）ので、その点でも安心だ。実際に北京空港の支店に両替に行ってみると、まず中国銀行の口座を持っているかと聞かれた。当然持っていないと答えると、納税者番号はあるかと聞かれた。「中国に住んでいないので番号も持っていない、どうすれば両替できるのか」と食い下がると、日本の納税者番号でも構わないとのことだった。といわれても納税者番号など持っていないので、「中国の身分証明書みたいなもので”マイナンバーカード”」というのがありますが、それでもいいかと聞くと OK だった。が、あいにくマイナンバーカードを持って来ていなかったの、パスポートだけじゃだめなのかとあらためて聞く（こういう時ダメ元で聞くと OK のこともある）と、だめとのことだった。行員が納税番号の代わりに、社会保険ナンバーでもいいといってくれたので、「健康保険証の番号でも構わないか」と聞くと OK だったというのが第二回のお話しの詳細である。

実際に必要書類を書かされて両替をしてもらったが、健康保険証そのものも特に実物を見てチェックしなかったので、架空の番号を書いても両替してもらえようだった。ただ、パスポート番号と紐付けられているので、そんなことをすると後で問題になるかもしれない。何しろ、中国の個人データのデータベースは優秀なので、きちんと届けておくに越したことはない。

銀行口座を含めてマネーロンダリング対策で本人確認を相当厳しく行っているのでは、従来のパスポートにプラスアルファの情報の提示を要求しているものと思われる。ただし、どこまで厳格に行っているのかについてはいい加減な部分もあり、そこには中国らしさが残っている。

本人確認といえば、Alipay（支小宝）や WeChat Pay（微信支付）でも厳格に行われており、送金などを行う際に本人確認を要求されるケースが多くなっている。

### ◆招商銀行@国貿支店編

銀行で両替ができなくなったというのではなく、本人確認のために必要なエビデンスが増えて、手続きが面倒になったということを確認できたわけだが、そうなる口座を持っている銀行での両替は問題ないはず（？）で、こちらも6月に出張したときに、筆者の個人口座がまだ残っている招商銀行の窓口で両替に行って実際に確認してみた。

驚いたのは、銀行で順番待ちをするのにもらう番号札のシステムだった。なんと招商銀行の行内なのに、順番待ちの番号の申込みをスマホアプリから行えというのだ。実際、日本でもおなじみの番号札を貰う機械は行内においてなかった。招商銀行はシステム化にいち早く取り組んでいたもので、日本の銀行でも可能なワンタイムパスワードを利用したネットバンキングは筆者が滞在している頃（2013年3月まで）から利用可能だったが、まさか店内の順番待ちまでスマホアプリ化（右の画像の扫一扫を押してカメラを起動させ、銀行の受付にあるQRコードをスキャンする）されているとは、ちょっと驚きだった。

考えてみると、アプリでスキャンすればスマホのアプリには預金残高や取引実績など銀行にとってVIPかどうかを瞬時に判断できるデータが揃っているのでは、双方メリットがあるといえそう。ネットとリアルとの融合がこういうところでも行われているのかと思うと、スマホを使ったキャッシュレス社会の入り口に立てるかどうかという日本の現状との差は相当大きいと実感せざるをえなかった。

預金口座は外貨（円）と元の二重預金口座になっているので、一旦外貨を外貨預金口座に預けて、それを人民元の口座に振り替え、更に引き出すという形で外貨の両替が行われる。筆者



の場合、現金は不要なので、全部人民元口座に残した形で、両替終了・・・めでたしめでたし。と思っていたら、あとから窓口の行員から電話がかかってきた。なんでも、不備があったのでもう一度銀行の窓口に来られないかということだった。偶然にも別件で銀行の近くにいるときにかかってきたので、とりあえず銀行に立ち寄ることにした。

行員いわく、現住所を確認していなかったという。現在、中国では外国人が中国国内で銀行口座を開設するには居留証が必要である。筆者は既に駐在員ではないので、昔開設した口座をそのまま使っている。要するに住所不定にもかかわらず口座を持っているのである。銀行口座を解約させられるのだろうか・・・という最悪のケースが頭をよぎったが、結局駐在時代の会社の住所を聞かれた（後日、番地などを間違えて伝えていたので WeChat で修正を伝えた）だけで、そのままお咎め無しで、今も銀行口座はそのまま使えている。

ただし、20年の10月にパスポートが切れるので、「ウルトラマンのカラータイマーが点滅を開始した状態」ではあるが・・・。

#### ◆日本では考えられない銀行の個人情報の取扱い

この話には後日談があり、中国での個人情報の取扱いに関して、中国事情にはそれなりに通じている筆者でもちょっと驚くことが発生した。

なんと筆者の WeChat に件の行員から友達申請が送られてきたのだ。（残念ながら行員は男性である。）彼に伝えた番地を間違っているのに気がついたので、後日訂正を送ったのが右の画像（駐在時には住所は暗記していたので、どこにもメモしていなかったため番地などを間違えて伝えていた）である。名前と写真は隠してあるが、招商銀行の行員であり、写真も本人に間違いはない。（何故か彼女？とのツーショットの写真）

日本でこのようなことが行われることはまずないだろうが、中国では WeChat（微信）はビジネスでも電子メールや電話の代わりに使われており、社内外の連絡のほとんどが WeChat で行われている。そのため WeChat の登録に必要な携帯番号を名刺に書いていないビジネスパーソンはいないといっても過言ではないほどだ。今回もその「慣習」に則って、携帯番号を使って友達申請をしてきたのだろう。

中国のビジネスシーンでは、今後連絡を取る必要があると思われる人は、その場で WeChat の QR コードを交換するのが普通だ。あとから登録する手間を考えるとそれが一番簡単だからである。



#### ◆中国についたら、まず両替商で両替をするのが賢明

銀行での両替は何れにせよ面倒なので、空港に着いたら空港の両替商で最低限必要な人民元を交換しておくことをおすすめしたい。その際、できるだけ 100 元札以外の札をもらっておくのが賢いやり方だと思う。何しろキャッシュレス化が進んでいて、大都市の場合、現金を全く使わないで過ごしている人たちがほとんどで、お釣りが用意されていない場合も多い。

ホテルも北京や上海などの大都市の場合は、両替可能だが、空港から地方のローカルなホテルなどに直接移動してしまう場合は、空港で両替しておくのが賢明である。地方のホテルは両替をしていないところが結構ある。実際筆者も、大連である会合に参加した時、中方が予約してくれたホテルは、両替できなかった。また地方の銀行では、両替をやっていない銀行もある。

人民元を余分に持っていない場合は、到着したらとりあえず空港で両替を済ませておくことをおすすめしたい。

(2019/07 森山博之)